

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

Abstract of Japanese Utility Model Publication No. H2-27890

A positioning plate 2 is movably provided on a paper table 1, in which the edge portion of papers can be fitted to the positioning plate 2. In the vicinity of the side of the paper table 1, a guide rail 3 is set in such a manner to be rotatable to the paper table 1. The guide rail 3 supports a slider 8, which is movable thereto and has a detachable circular blade 12 underneath. And, a blade slot portion 21 provided on the paper table 1 where the slider 8 is slided can secure the circular blade 12.

④ 日本国特許庁 (JP)

④実用新案出願公開

④ 公開実用新案公報 (U)

平2-27890

④Int. Cl.

B 26 D 1/18
7/01

識別記号

序内整理番号

④公開 平成2年(1990)2月22日

C 6964-3C
7041-3C

審査請求 有 求求項の数 1 (全2頁)

④考案の名称 紙の裁断器

④実 順 昭63-106660

④出 願 昭63(1988)8月12日

④考案者 森 忠三 東京都葛飾区立石3丁目7番9号

④出願人 カール事務器株式会社 東京都葛飾区立石3丁目7番9号

④代理人 弁理士 畠 優美 外2名

④実用新案登録請求の範囲

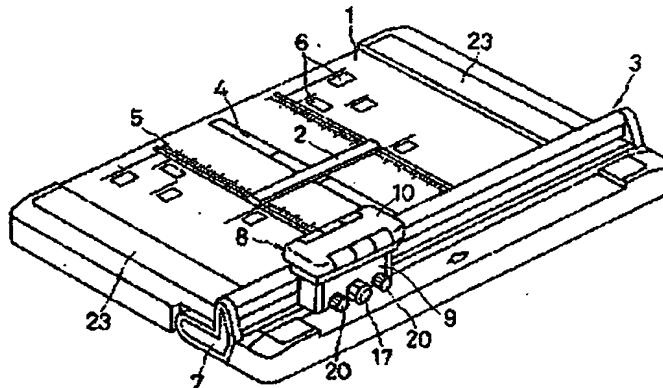
紙を裁断する基板の上面に紙の端部を当接させる位置決め板を移動自在に設け、前記基板の端部近傍に該基板に対して起倒自在にガイドレールを設け、該ガイドレールには下部に円形刃を着脱可能な取付けたスライダを滑動自在に支持し、前記基板の該スライダ移動位置に前記円形刃を受ける刃受け部を設けたことを特徴とする紙の裁断器。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例の斜視図、第2図は第1図のものの要部を拡大した正面図、第3図ないし第5図は回転刃の取付け手順の説明図、第6図は使用するときの状態を示す斜視図である。

1……基板、2……位置決め板、3……ガイドレール、8……スライダ、12……円形刃、21……刃受け部、22……紙。

第1図



- 1…基板
- 2…位置決め板
- 3…ガイドレール
- 8…スライダ
- 12…円形刃
- 21…刃受け部
- 22…紙

公開実用平成 2—27890

②日本国特許庁(JP)

①実用新案出願公開

②公開実用新案公報(U) 平2-27890

⑤Int.CI.⁵

B 26 D 1/18
7/01

識別記号

庁内整理番号

④公開 平成2年(1990)2月22日

C 6864-3C
7041-3C

審査請求 有 請求項の数 1 (全 頁)

③考案の名称 紙の裁断器

②実 願 昭63-106660

②出 願 昭63(1988)8月12日

③考案者 森 忠三 東京都葛飾区立石3丁目7番9号

④出願人 カール事務器株式会社 東京都葛飾区立石3丁目7番9号

⑤代理人 弁理士 萩 優美 外2名

明細書

1. 考案の名称

紙の裁断器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 紙を載置する基板の上面に紙の端部を当接させる位置決め板を移動自在に設け、前記基板の端部近傍に該基板に対して起倒自在にガイドレールを設け、該ガイドレールには下部に円形刃を着脱可能に取付けたスライダを摺動自在に支持し、前記基板の該スライダ移動位置に前記円形刃を受ける刃受け部を設けたことを特徴とする紙の裁断器。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、安全にしかも正確な直線裁断ができる、紙の裁断器に関するものである。

(従来の技術)

紙の裁断器として従来から多く使用されているものは、紙を載置する基台の端部に、一端にハンドルを取付けた長い板体をその端部において軸着

し、それにナイフ型の長刃を取付け、この長刃を軸を中心にして開いた状態で紙を基台上に置き、長刃を基台に対して降ろし、基台の端部の金属板（受け刃）と長刃とで紙を剪断して切る構造のものである。この型式の裁断器は、紙のほかに写真の裁断等に多く使用される。

(考案が解決しようとする課題)

上記従来の裁断器においては、刃が長い上に剥出しであり、したがって幼児等にとって危険なほか、使用者にとっても不注意により指を切ってしまうことがある問題がある。また長刃と基台側の金属板（受け刃）を研ぐのに時間がかかる問題もあり、さらには複数枚の紙を重ねて切るとときに裁断の途中で紙がずれてしまい、曲がって切れることがある問題もあった。本考案は、これらの問題を解決することを課題として成されたものである。

(課題を解決するための手段)

本考案は、上記課題を解決するための手段として、紙22を載置する基板1の上面に紙22の端部を

当接させる位置決め板2を移動自在に設け、前記基板1の端部近傍に該基板1に対して起倒自在にガイドレール3を設け、該ガイドレール3には下部に円形刃12を着脱可能に取付けたスライダ8を摺動自在に支持し、前記基板1の該スライダ8の移動位置に前記円形刃12を受ける刃受け部21を設けた構成としたものである。

(作用)

このような構成とすれば、ガイドレール3を基板1に対して開き、その状態で裁断すべき紙22を基板1の上に載置し、載置後ガイドレール3を倒してスライダ8の下部の円形刃12を紙22に当てがい、スライダ8を下方に押しながらガイドレール3上で引けば（押してもよい）、紙22は回転する円形刃12によって、正しい直線に裁断されることになる。

(実施例)

次に、本考案の一実施例を図について説明すると、まず第1図は本考案に係る紙の裁断器の全体を示すものであって、1は紙を載置する基板、2

公開実用平成 2-27890

5

はこの基板1上を滑動して移動する位置決め板、3は後述する、本考案のもっとも大きな特徴部分であるガイドレールである。位置決め板2は基板1の中央部に設けられた溝4に沿って移動するものであり、移動位置がわかるように、基板1の表面には、寸法目盛5と、A4やB5というような表示6が設けられている。

ガイドレール3は基板1の縦の長さに適合する長さを有する本体部分と、この本体部分の両端部に設けられたL字状のアーム7とから大略構成され、アーム7の先端を軸着した軸（図示せず）を中心にして、基板1の端部近傍部位において、基板1に対して起倒自在に取付けられたものである。このガイドレール3の下面には、薄板状のマグネット3aが貼着されており、基板1の上部にはこれに対応させて鉄板等の磁性板（もちろんマグネットでもよい）が貼着されている。これらにより、第1図に示すようにガイドレール3を基台1上に降ろしたとき、ガイドレール3には基板1側に引かれる適度の吸着力が作用することになる。

第1図および第2図に示すように、ガイドレール3には、スライダ8が滑動自在に支持されている。スライダ8はガイドレール3に係合する本体9と、その上部に取付けられたノブ10、および本体9の内部に軸11（第3図参照）により中心部を軸着された円形刃12から大略構成されている。円形刃12は薄い鋼鉄板でできており、外周全体に刃が形成されているものである。第3図ないし第5図は、この円形刃12の取付け構造を示すものである。これを説明すると、本体9には第4図に示すように凹部13があり、この凹部13に刃取付板14が嵌入して取付けられるようになっている。

刃取付板14の裏面には下部を切欠いた円形の凹部15があり、その中心位置には外周部を六角形にした軸11が脇けられている。この軸11には、中央部に六角形の孔16を設けた円形刃12が装着される。17は軸11の頭部、18は刃取付板14を本体9に取付けるねじ19（第4図参照）を貫通させるねじ孔である。ねじ19は、本体9側にあらかじめ螺合しておく。円形刃12の取付けは、まず円形刃12を

刃取付板14の突起16に装着し、第4図に示すようにその状態で刃取付板14の向きを変え、突出しているねじ19を刃取付板14の孔18に貫通させ、第5図に示すようにナット20を螺合すれば完了する。

円形刃12の取付けはこのようにして行なうので、この円形刃12が摩耗したときには簡単な作業で交換することができるし、また通常の刃に代えて歯車状の刃を装着することもできる。このようにすれば紙にミシン孔をあけることができる。基板1側の円形刃12に対応する部分は刃先によって切れたり、刃先を損傷したりしては都合が悪いので、この部分は刃受け部21に形成されている（第2図参照）。第3図中に符号24で示すものは円形刃12を吸着するためのマグネットである。

このように構成されたこの紙の裁断器は、次のように使用する。第6図に示すように、ガイドレール3を基板1から起し、これによって基板1とガイドレール3との間に形成された隙間から裁断すべき紙22を挿入する。この紙22の先端は、あらかじめ位置を決めておいた位置決め板2に当接

させる。これにより裁断すべき位置を正確に決めることができる。次にガイドレール3を降下させる（紙22の図示はないが第1図の状態）。これにより、ガイドレール3は基板1との間に紙22を挟持することになる。

この状態においてスライダ8をガイドレール3の一端部に置き、スライダ8のノブ10の部分に手をかけて適度の力で下方に押しながら他端部に向けて引く。このようにすると、円形刃12が回転しながら紙22の上を移動するので、紙22はガイドレール3に沿った直線で、正確に裁断されることになる。基板1は全体が平坦でもよいが、両側を中央部より僅かに高くしておけば紙22の載置がない易いし、さらに両側の部分23（第1図および第6図参照）に目盛りを設けておけば更に使い易くなる。

（考案の効果）

本考案は以上説明したように構成した紙の裁断器であるから、従来のものに比して簡単にしかも安全に、正しい直線裁断がされることになる効果

公開実用平成 2-27890

がある。そして刃先が摩耗したときの交換も容易に行なえ、かつ種類の異なった刃先に交換することも可能である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の一実施例の斜視図、第2図は第1図のものの要部を拡大した正面図、第3図ないし第5図は回転刃の取付け手順の説明図、第6図は使用するときの状態を示す斜視図である。

- 1 … 基板
- 2 … 位置決め板
- 3 … ガイドレール
- 8 … スライダ
- 12… 円形刃
- 21… 刃受け部
- 22… 紙

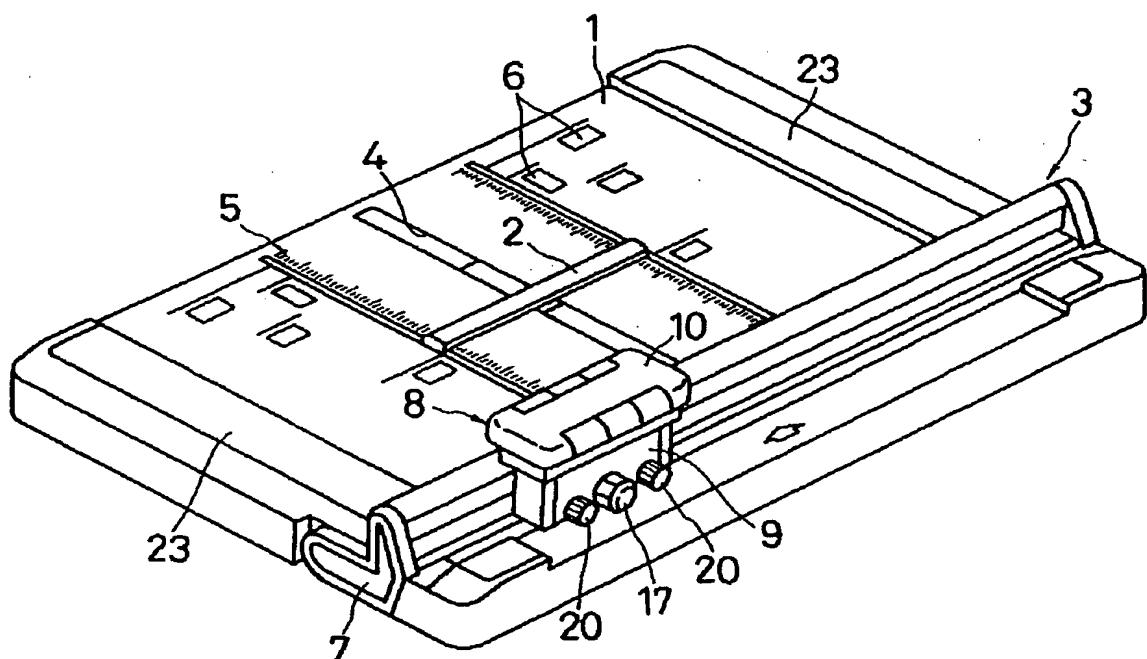
実用新案登録出願人 カール事務器株式会社

代理人 弁理士 菊 優美

(ほか2名)



第 1 図



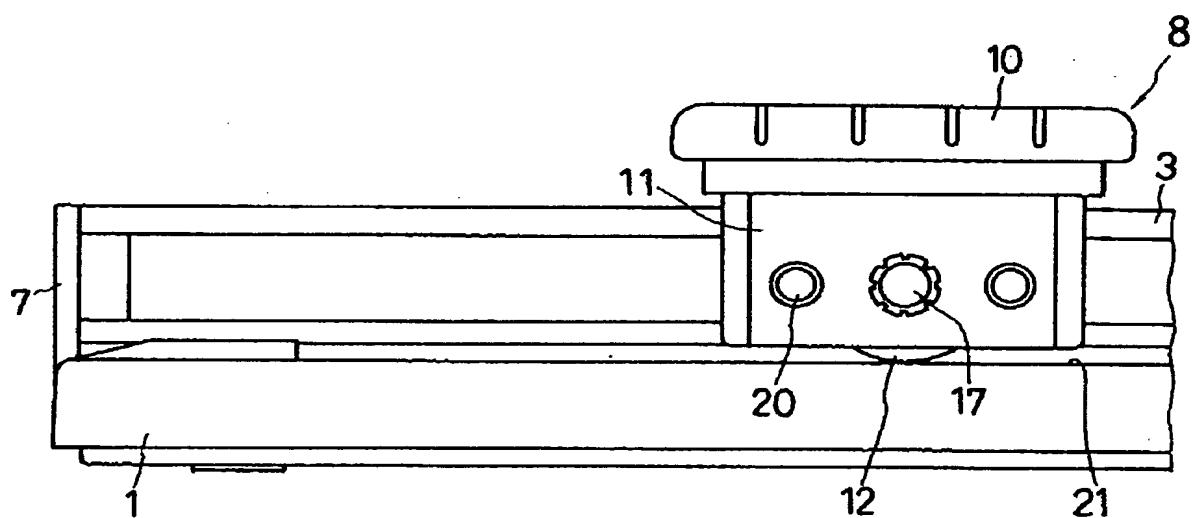
- 1 … 基板
- 2 … 位置決め板
- 3 … ガイドレール
- 8 … スライダ
- 12 … 円形刃
- 21 … 刃受け部
- 22 … 紙

1204
実開2- 27890

代理人 夢 優美外 2名

公開実用平成 2—27890

第 2 図

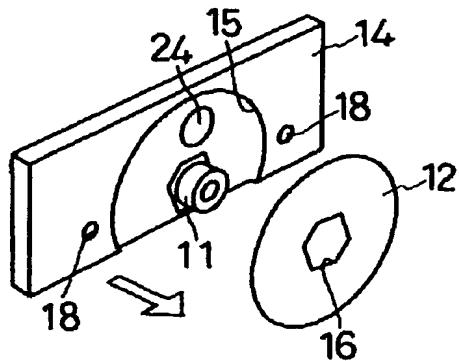


1205

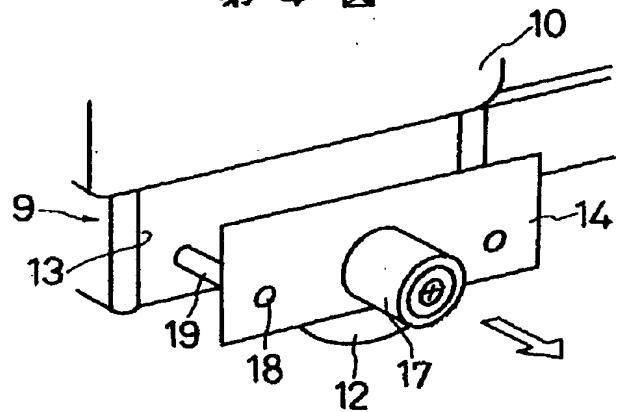
実開2- 27890

代理人 勇 優美外 2名

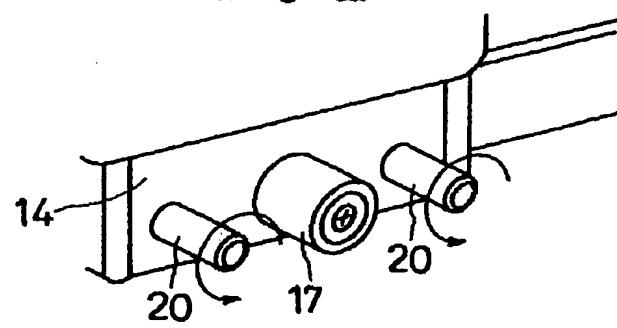
第 3 図



第 4 図



第 5 図



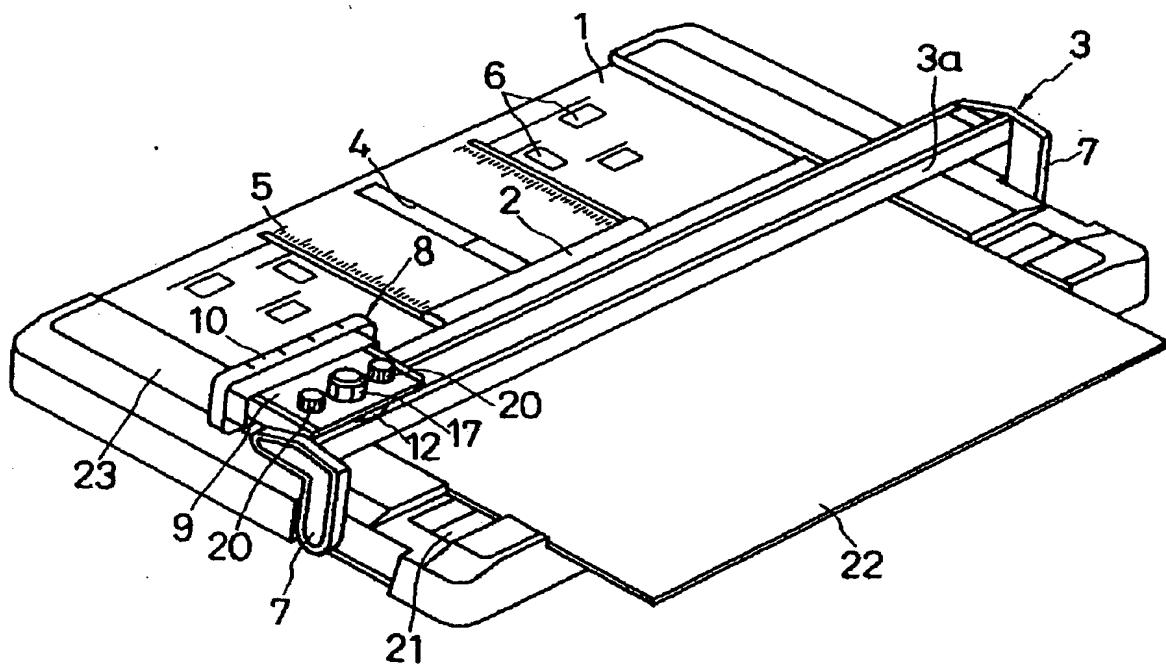
1206

実開2- 278

代理人 講 優美外 2:

公開実用平成 2-27890

第 6 図



1207

実開2- 27890

代理人 穎 優美外 2名